



「社会福祉基礎」:外部講師の方に授業をしていただきました

テーマ「専門職の仕事（介護職）」

6月18日（木）第6限、3年生選択科目『社会福祉基礎』において、リハビリセンター白鳥の施設長である桑原 陽氏を講師にお招きし授業を行いました。内容は『専門職の仕事（介護職）』です。3年2組の科目選択者28名が出席しました。その様子を紹介します。

講義内容

講義は「福祉における平等とは？」という質問から始まりました。それを考えるため、7名ずつ4つのグループに分かれ、各グループに人数で割り切れない数のお菓子が配られました。「お菓子を『平等』に分けるためにはどうしたらよいか？」がグループに出された課題です。

各グループ話し合いながら、各自が納得する配分を決めました。

福祉においては、皆が幸せになるために、「同じ数にする」ことではなく、「足りない人に多くを配分する」という考え方が大切です。そのことに気づかせていただきました。



人の尊厳を大切にされた施設での生活で、元気な笑顔を見せるお年寄りの姿。



半端な数のお菓子をどうやって「平等」に分ける？ 皆が納得する方法を考えよう！

また、チームアプローチについて教えていただきました。介護の仕事とは、障がいによって暮らしにくさを感じておられる方の生活（生…生きること、活…生き活きと暮らすこと）を支えることです。そのために多くの専門職がそれぞれの専門領域の視点で関わっていきます。1人の利用者の方に対し、専門職がそれぞれの立場で協力し合うことではじめて、生活の質（QOL: quality of life、）の高い介護ができるのです。

介護サービスに関わる職種は様々です。

- ①介護職員…社会福祉士、介護福祉士、2級ヘルパー ②介護支援専門員…ケアマネジャー
③相談員…社会福祉士 ④医師、看護職員 ⑤言語聴覚士、作業療法士、理学療法士
⑥栄養士、調理員等…



1本の指ですが、皆の力を合わせることで、皿を落とさないように持ち上げることができます。



声を掛け合いながら、同じスピードで持ち上げる必要があります。コミュニケーションを取り、皆の呼吸を揃えることが大切です。

授業後の振り返り

➤ 生徒の感想

- ・私たちが考える平等は、過不足なく均等に分けることだと思っていました。しかし、福祉ではその考え方とは異なり、個人を尊重した考え方があることを知り、なるほどと思いました。
- ・適切なケアが提供されることで、利用者の方の表情がとても生き生きとした表情に変化したことが印象的でした。人を笑顔にするということがケアをしている人の喜びにつながるのだということがわかりました。
- ・お皿を持ち上げる演習では、一人ひとりが自分のペースで持ち上げようとするとうがらないことが分かり、相手を思いやる気持ちを大切にしなければならないと思いました。

➤ まとめ

介護の仕事に携わる専門職は様々です。専門職のそれぞれの視点、見立てが違うことを理解し、他職種がどのような捉え方をしているのか確認をします。そして、お互いに認め合いながら、利用者の方にとっての生活課題を解決することが連携、チームアプローチにつながるのです。

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～